

予 算 要 求 資 料

令和5年度12月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名【新】フードバンク寄付農産物等運送緊急支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 流通企画係 電話番号：058-272-1111(内4062)

E-mail：c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	6,000	0	0	0	0	0	0	0	6,000
決定額	1,300	1,300	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

子ども食堂等の増加（R5.3末時点 92団体）により必要とされる食料品の数量が増加したことから、フードバンク団体による食料品の運送回数や運送距離が増加する傾向にある。

一方で、レギュラーガソリン1リットルあたりの価格は、2020年度と比較して、今年度（10月まで）の平均価格は38円高いなど、自動車燃料価格は依然として高値で推移している。

このため、フードバンク活動に関係するボランティアの経済的負担が増加している。

(2) 事業内容

自動車燃料価格の高騰が長期化する中、フードバンク団体やボランティアの経済的負担を軽減するため、緊急に支援する。

- ・事業主体：県内に活動拠点をおくフードバンク団体等
- ・対象経費：寄付農産物等の受け取りや子ども食堂等への配送に掛かる運搬経費
ただし、令和5年4月から令和6年3月の間に発生する費用に限る

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率：10/10以内

※ボランティア団体の取組み支援のため、県が10/10負担

補助上限額：なし

(4) 類似事業の有無

類似事業：食料産業・6次産業化交付金（フードバンク活動の推進事業・国庫）

フードバンク活動支援事業補助金（宮城県）

関連事業：フードドライブに対する支援（廃棄物対策課）

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	6,000	農産物等食材の輸送にかかる燃料費補助
合計	6,000	

決定額の考え方

物価高騰分に対する支援とし、所要額を計上します。
財源については、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画
6-1-(2)-⑦ フードバンク活動の支援

岐阜県食品ロス削減推進計画

- V-1-(3) フードロスチェーンにおける食品ロス削減
- V-2-(1) フードバンク活動・フードドライブ等の支援

(2) 国・他県の状況

・農林水産省策定「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた具体的取組みにおいて、本事業の主旨に沿った「持続可能な消費の拡大」が位置づけ。

(3) 後年度の財政負担

・臨時支援であるため後年度負担なし

(4) 事業主体及びその妥当性

・フードバンク団体は寄付農産物の収集から子ども食堂等への配送まで、規格外農産物等の物流を担っているが、ボランティア活動であり、脆弱な資金による運営のため物価高騰の影響は相当にあるため妥当。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	フードバンク 寄付農産物等運送緊急支援事業費補助金
補助事業者 (団体)	フードバンク団体等 (理由) 物価高騰の中、寄付農産物等の搬送を担うフードバンク活動を対象にした支援であるため。
補助事業の概要	(目的) フードバンク団体等の経済的負担を軽減するため農産物等の搬送に係る経費を緊急に支援する。 (内容) フードバンク活動における農産物等の搬送に係る経費 (自動車燃料費)
補助率・補助単価等	定額・ <u>定率</u> ・その他 (内容) 10/10以内 (理由) フードバンク活動はボランティア団体による取組みであり、これを支援するため、県が10/10負担
補助効果	物価高騰による悪影響が軽減され、フードバンク活動の持続性が増し、規格外農産物等活用の維持・促進が図られる。
終期の設定	終期 令和5年度 (理由) 緊急支援として実施する単年度事業であるため。

(事業目標)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか ・ フードバンク活動への物価高騰の影響を軽減し、活動の持続性を高め、フードバンクによる規格外農産物等の活用を維持・促進する。
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度実績	R4年度目標	R5年度目標	終期目標 (R5)	達成率

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	—	—	—

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和3年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和4年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価)	<p>3</p> <p>食品ロス削減におけるフードバンク等への食料提供の取組みは、コロナ禍およびその後の物価高騰の影響により生活困窮等で食料を必要とする方が顕在化するとともに、フードバンクの取組みに注目され、その必要性が増加している。 そして、その推進に当たっては福祉、子ども関係部局との連携が不可欠であることから、県の関与が必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり (単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり (単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない (単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない (単年度目標50%未満)</small></p>	
(評価)	<p>事業実施前であるため評価なし。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価)	<p>事業実施前であるため評価なし。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 生産者に対し理解促進を図る取組みを並行して行うことが不可欠である。 ①フードバンク活動や子ども食堂の取組み等 ②フードサプライチェーン上流部における未利用食品の活用</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 燃料費価格高騰対策のため、単年度事業とする。</p>
